

1. 活動の名称

比良の水辺再生プロジェクト

2. 活動の概要

目的・目標	琵琶湖湖岸、河川、石組み水路の自然環境と文化的景観の再生と活用
活動エリア	比良山麓(大津市)
活動時期	2005年～通年(継続中)

3. 取組内容

比良の水辺再生プロジェクトは、1. びわ湖よしよしプロジェクト（和邇漁港付近の琵琶湖湖岸）、2. 魚ののぼれる川づくり（喜撰川）、3. 生水の流れる川づくり（大道川）、という比良山麓で行われている3つのプロジェクトにより構成され、生物多様性の保全に貢献してきた。

**1. びわ湖よしよしプロジェクト**では、琵琶湖湖岸のヨシ帯を再生するため、間伐材、粗朶などを活用した消波堤を設置して波浪の作用を軽減し、周辺のヨシを移植している。粗朶は、周辺の里山から採取した柴であり、里山の資源利用と水辺の再生をつなげる試みとなっている。

**2. 魚ののぼれる川づくり**では、堰や護岸工事などで連続性を失ってしまった河川に木製の魚道を作製、設置し、定期的な維持管理活動を行っている。魚道により琵琶湖から河川を行き来するアユやナマズなどの魚類の生息環境の連続性が確保され、環境教育の場ともなっている。

**3. 生水の流れる川づくり**では、地元の守山石などの石材をつかった石組み水路、湧水利用の場を保全、創出し、水辺生物の生息環境を確保している。地域の文化的景観を支える造園技術の伝承の場、学校の授業や調査研究の場などとして活用されている。

これら3つのプロジェクトは、開発や公共事業などにより変化する水辺環境が人にとっても生物にとっても健全で魅力ある場として継承したい、と願う地元住民やボランティア、専門家等の思いが形となっているもので、国内外の研究者や報道機関等も取材、研修に訪れている。



#### 4. 今後の課題・将来像等

比良山麓で行っている生物多様性の保全に関する活動は、森林と農地、あるいは水辺など地域の景観を構成する様々な要素が対象となっている。また、地域内での自然資源の循環や伝統的な技術を大切にしつつ、身近な里山の自然再生、活用につなげるため、様々な人々の協力が不可欠となっている。

本プロジェクトは、「びわ湖自然環境ネットワーク」と「NPO法人 比良の里人」とが中心となって継続しており、活動に賛同する「やぶこぎ探検隊」などの市民組織、地元の「大津市立志賀中学校」、「京都大学」の研究室などが、教育・研究活動の一環として参加してきた。今後も小規模であっても継続して取り組むことが重要と考えており、参加するメンバーの主体的な活動を尊重していきたいと思っている。

また、協働の輪を広げる工夫として、子供の教育やレクリエーションの場として、季節ごとの自然の恵みを味わうといった、生活や余暇の中で気軽に参加できるプログラムを充実することが今後の課題としてあげられる。子供から年配の方までの幅広い年齢層、あるいは、地域内外の人の参加をうながすとともに、科学的な検証や国内外への発信をするため、専門家とのさらなる協働も重要と考えられる。



#### 5. 連絡先等

〒520-0515  
滋賀県大津市八屋戸302番地  
「NPO法人 比良の里人」代表 寺川庄蔵  
TEL/FAX 077-592-0856  
E-mail t-shozo@mx.biwa.ne.jp